

平成21年度運営計画	実施状況
<p>リスクコミュニケーションについては、委員会が行う食品健康影響評価その他の食品の安全性の確保のための様々な取組について、広く国民の理解を得るため、引き続き参加型の運営を目指す。</p> <p>1 意見交換会の開催 意見交換会については、委員会が行う食品健康影響評価その他の食品の安全性の確保のための様々な取組について、広く国民の理解を得るため、リスクコミュニケーション推進事業で実施した各講座の受講者の協力も得つつ、多様な場の設定と参加型の運営を目指す。</p> <p>具体的には、以下の観点から適切なテーマの選定を行い、計画段階において、対象者、開催方法、開催規模等を十分検討するとともに、実施後の評価（計画段階で設定した目標の達成度、参加者の理解度・満足度等）を行い、必要に応じて改善を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リスク評価のうち、国民の関心の高いもの ・ リスク管理措置がとられているもののうち、国民の関心が高いものであって、かつ、リスク評価の内容についても説明の必要があるもの ・ リスク分析の考え方 	<p>○ リスクコミュニケーション専門調査会において審議・了承された「意見交換会の実施と評価に関するガイドライン」を踏まえ、意見交換会の計画段階において、テーマごとに適した対象者、開催方法（地方公共団体との連携等）、開催規模等を十分検討し、別紙1のとおり意見交換会を43回開催した。</p> <p>※ 関係府省が連携して9回、食品安全委員会単独で7回、地方公共団体との共催で33回開催（いずれも延べ回数）</p> <p>○ 平成20年度における意見交換会の事後評価の結果、リスク評価に関する意見交換会の反省点として「専門用語が多いので用語集を用意すべきだった」が挙げられていたことから、「鶏肉中のカンピロバクター・ジェジュニ／コリ」、「我が国に輸入される牛肉及び牛内臓に係る食品健康影響評価（自ら評価）」に関する意見交換会実施時に、「用語解説」の作成・配布を行った。</p> <p>○ 地方公共団体との共催による「ジュニア食品安全委員会」を実施し、小学生とその保護者を対象として、食品の安全性に関するクイズや食品安全委員会委員との意見交換などを行った。</p> <p>○ リスクコミュニケーション育成講座の受講者の活用に加え、地域における意見交換会の新しい手法の一つとして、グループディスカッションによる参加者同士の話し合いを進めることによって、食の安全に関する理解を深めていく意見交換会を実施した。</p> <p>○ 地方公共団体等が実施する意見交換会等への講師派遣を98回行った。</p> <p>○ 7月、全国消費者団体連絡会との懇談会を行った。</p>
<p>2 リスクコミュニケーション推進事業の実施 地域におけるリスクコミュニケーションの推進と人材育成を行うとともに、食育の推進にも資する観点から、以下に留意して、リスクコミュニケーション推進事業を実施する。</p> <p>① 意見交換などの会議を円滑に進行する技術を有するリスクコミュニケーション（ファシリテーター）及び科学的知見に関する情報を分かりやすく説明でき</p>	<p>① 「リスクコミュニケーション育成講座」の計画的な実施（別紙2参照）</p> <p>○ 「リスクコミュニケーション（ファシリテーター）育成講座」を以下のとおり、全国で11回開催。 佐賀県（7月15日）、愛媛県（8月26日）、神奈川県（8月28日）、滋賀県（9月1日）、</p>

るリスクコミュニケーター（インタープリター）を育成する「リスクコミュニケーター育成講座」の計画的な実施に努める。

② 「リスクコミュニケーター育成講座」等の受講者によるリスクコミュニケーション（グループディスカッション等）を推進する。

③ 食品安全に関する普及啓発活動や食育に資する資材を製作し、その活用の促進にも努める。

群馬県（10月14日）、京都府（10月23日）、広島県（11月10日）、高知県（11月19日）、
岩手県（平成22年1月29日）、富山県（2月5日）、静岡県（2月10日）

○ 「リスクコミュニケーター（インタープリター）育成講座」を以下のとおり、全国で8回開催。
岡山県（7月8～9日）、石川県（10月8～9日）、兵庫県（10月29～30日）、北海道（12月3～4日）
埼玉県（1月14日～15日）、長崎県（1月21日～22日）、和歌山県（1月27日～28日）、
高知県（2月23日～24日）

② 「リスクコミュニケーター育成講座」等の受講者によるリスクコミュニケーション（グループディスカッション等）の推進

○ グループディスカッションによる参加者同士の話し合いを進めることによって、食の安全に関する理解を深めていく意見交換会を、以下のとおり、全国で3回実施した。この意見交換会では、リスクコミュニケーター育成講座等の受講者がファシリテーター役として参加することにより、実践的活動における役割を直接示した。

平成21年8月11日：広島市、厚生労働省との共催
9月8日：岡崎市、厚生労働省との共催
11月6日：徳島県、厚生労働省との共催
12月1日：大分県、厚生労働省との共催

平成22年2月3日：群馬県との共催
2月9日：和歌山県との共催
3月9日：兵庫県との共催
3月17日：岡山県との共催

③ 食品安全に関する普及啓発活動や食育に資する資材の製作及びその活用の促進

○ リスクコミュニケーター育成講座等の受講者が地域におけるリスクコミュニケーションを推進する活動を行えるよう、必要な情報を提供した。

〔参考〕

受講者からの要望により、各種パンフレットの提供、DVDの貸出し及びクロスロード設問例の提供等を行った。

3 全国食品安全連絡会議の開催

委員会と地方公共団体との緊密な連携や情報の共有化を図るため、地方公共団体（都道府県、保健所設置市（政令指定都市、中核市を含む。）及び特別区）との連絡会議を開催する。

この連絡会議においては、地方公共団体のニーズ等を踏まえてテーマを決定するとともに、地方公共団体相互の情報の共有化を図る。

○ 全国食品安全連絡会議のテーマ等に関するニーズ等を把握するための事前調査の結果を踏まえ、

- ・ リスクコミュニケーション専門調査会専門委員による講演
- ・ 食品安全委員会のリスクコミュニケーションの新たな取組に関する情報提供
- ・ 子供を対象とした食品安全分野における情報提供
- ・ 消費者事故等に対する消費者庁の取組

を内容とする平成21年度食品安全連絡会議を11月27日に開催した。

4 食品安全モニターの活動

食品安全モニター470名に対し、委員会が行った食品健康影響評価の結果に基づき講じられる施策の実施状況や食品の安全性等に関して、日常の生活を通じて気付いた点等についての報告を積極的に求めるとともに、地域への情報提供等について協力を依頼する。

また、食品安全モニターとの情報・意見の交換を図るため、平成21年5月ごろを目途に、北海道、東北地域、関東地域、東海地域、北陸・近畿地域、中国・四国地域、九州・沖縄地域等の地域別に、食品安全モニター会議を開催する。なお、開催に当たっては、これまでに寄せられた食品安全モニターからの意見等を参考とし、会議内容等の改善を進める。

その他、食品安全モニターに「リスクコミュニケーション育成講座」等への参加を促すなど、リスクコミュニケーション推進事業との連携を図る。

○ 平成21年度食品安全モニターについては、4月1日に新規モニターとして235名（応募総数1,667名）及び20年度からの継続モニターとして235名の計470名を依頼した。

○ モニターの方々に委員会の取組等について知識及び理解を深めてもらうとともに、継続モニターからの地域における活動報告やモニター同士による意見・情報交換を行うため、5月22日から6月24日までに、全国7会場で10回（東京3回、大阪2回、札幌、仙台、名古屋、岡山及び福岡各1回）、食品安全モニター会議を開催した。

〔平成21年度における主な改善点〕

- ・ 食品安全モニターによる地域での食品安全に関する活動に資するよう、講演資料の電子媒体を希望者に配布
- ・ 食品安全モニター相互の自発的交流を促進するため、希望を聴取の上、食品安全モニターの名簿を作成し、配布
- ・ リスク管理機関が発行する食品安全に関する資料を配付

○ 食品安全モニターの活動実績は、以下のとおりである。

- ・ 食品安全行政等に関する意見等について338件の随時報告があり、関係行政機関に回付するとともに、毎月、委員会会合において概要を報告した。

〔参考〕（平成22年2月末現在、暫定）

食品衛生管理関係： 55件

リスクコミュニケーション関係： 52件 等

- ・ 「食品の安全性に関する意識等について」（7月実施）の課題報告を受け、委員会の取組のための参考とした。

〔参考〕

「食品の安全性に関する意識等について」（7月実施）においては、毎年継続して実施している調査や平成20年10月に一般の方々2000名を対象に実施したインターネット調査との比較を行った。

また、「食品安全委員会からの情報発信について」（平成22年1月実施）の調査を行った。

5 情報の提供・相談等の実施

国民に対し、正確で分かりやすい情報を迅速かつ適切に提供するため、国民の関心や提供した情報の理解・普及の状況・効果の把握に努めつつ、ホームページ、メールマガジンの配信、季刊誌、パンフレット、リーフレット、食品の安全性に関する用語集の発行等を通じ、積極的に情報提供を行うとともに、メールマガジンの会員募集等利用者の拡大に向けた取組を積極

(1) ホームページ等による情報提供

○ 委員会のホームページにおいて、以下の情報を掲載するなど、分かりやすい情報発信に努めた。また、国民の関心の高いと思われる食品の安全性に関する事案について「重要なお知らせ」等としてホームページへの速やかな掲載、情報提供に努めた。

- ・ 妊娠中の食生活において留意いただきたいことを簡便かつ平易に取りまとめた妊婦の方向けの情報提供ページをホームページに設けた。（11月26日掲載）

- ・ 「重要なお知らせ」としてホームページに掲載した情報

「メキシコ及び米国におけるインフルエンザ様疾患の発生状況に関する厚生労働省からのお知らせ（4

的に進める。また、地方公共団体や関係団体への情報提供にも努める。ホームページについては、一層の内容等の充実や迅速な更新、メールマガジン等との連携を図る。

さらに、一般国民に対する報道の重要性を踏まえ、必要に応じて委員等による記者会見を開くほか、これまでの報道担当記者等との懇談会に加え、幅広いマスメディア関係者との間で意見交換を行うことなどにより、適時適切な情報の提供と食品安全に関する理解の促進に努める。併せて、プレスリリースのメール随時配信等によるマスメディア関係者へのきめ細やかな情報提供と連携の維持・充実を引き続き推進するとともに、委員会におけるマスメディア対応能力の向上に努める。

食の安全ダイヤルを通じた一般消費者からの相談や問い合わせについての対応を引き続き行うとともに、食の安全ダイヤルに寄せられた情報及び食品安全モニターから寄せられた情報は関係機関とも共有し、積極的に活用を図る。

月25日掲載)」、「メキシコ及び米国におけるインフルエンザ様疾患の発生状況について（豚インフルエンザに関連する情報）（4月27日掲載）」、「食品安全委員会委員の任命及び委員長談話（7月1日掲載）」、「新型インフルエンザ（インフルエンザA/H1N1）に関する情報（10月21日掲載）」等

- 電子メールを用いた配信サービス（いわゆるメールマガジン）においては、食品安全委員会等の結果概要や食品安全委員会ホームページ新着情報等を、原則毎週金曜日に、約8,100名（平成22年3月末）の会員に対し配信した。

〔参考〕

平成21年3月末	：約6,900名
5月末	：約7,200名
7月末	：約7,400名
9月末	：約7,500名
10月末	：約7,600名
11月末	：約7,700名
12月末	：約7,800名
平成22年1月末	：約7,900名
2月末	：約8,000名

- 委員会ホームページを、食品安全総合情報システムと統合した。

- また、食品の安全性に関する事案についての情報をホームページへ掲載した際、その旨速やかにお知らせするために臨時のメールマガジンを発行するとともに、地方公共団体へ情報提供を行った。

〔参考〕

4月25日：「メキシコ及び米国におけるインフルエンザ様疾患の発生状況に関する厚生労働省からのお知らせ」

4月27日：「メキシコ及び米国におけるインフルエンザ様疾患の発生状況について（豚インフルエンザに関連する情報）」

7月1日：「食品安全委員会委員の任命及び委員長談話」

10月21日：「新型インフルエンザ（インフルエンザA/H1N1）に関する情報」

- 生活協同組合コープかながわ主催「たべる、たいせつ つくる、たいせつ」フェスティバル（4月）、全国食育推進大会（6月）、岡崎市食育メッセ（11月）においてブース出展し、リスク分析の考え方や委員会の役割についてのパネル展示やパンフレット類を配布した。

(2) 季刊誌「食品安全」等による情報提供

- 季刊誌「食品安全」については、7月に「体細胞クローン牛・豚由来食品のリスク評価」及び「かび毒（総アフラトキシン）のリスク評価」を特集した第19号を、10月に「食中毒原因微生物カンピロバクターのリスク評価」を特集した第20号を、平成22年1月に「遺伝子組換えパパイヤのリスク評価」を特集した第21号

	<p>を、3月に「BSEが発生していない国を対象とした輸入牛肉・牛内臓のリスク評価」を特集した第22号をそれぞれ発行した。</p> <p>(3) 広報等の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 6月23日に、「残留基準値のもつ意味合い～ADI、残留基準値と食品の安全性～」をテーマとして、マスメディア関係者との勉強会を実施。また、7月1日に、食品安全委員会委員の就任記者会見を行った。 ○ 報道関係者に対して、委員会会合の開催案内などのプレスリリースについて、電子メールによる配信を行った。 <p>(4) 食の安全ダイヤル</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 一般消費者等から655件の相談や問合せを受け付け、多く寄せられる質問等については、毎月、Q&Aを作成し、ホームページに掲載した。 <p>〔参考〕</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>当委員会関係</td> <td>:</td> <td>136件</td> <td></td> </tr> <tr> <td>食品の安全性関係</td> <td>:</td> <td>111件</td> <td></td> </tr> <tr> <td>食品一般関係</td> <td>:</td> <td>384件</td> <td>等</td> </tr> </table>	当委員会関係	:	136件		食品の安全性関係	:	111件		食品一般関係	:	384件	等
当委員会関係	:	136件											
食品の安全性関係	:	111件											
食品一般関係	:	384件	等										
<p>6 リスクコミュニケーションに係る事務の調整</p> <p>委員会及びリスク管理機関のリスクコミュニケーションに関する計画について、その整合性等を保つ観点から、毎月2回程度、関係府省の担当者によるリスクコミュニケーション担当者会議を開催し、必要な調整を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 関係府省リスクコミュニケーション担当者会議を23回開催し、委員会及びリスク管理機関が開催する意見交換会の開催時期、テーマ、具体的内容、方向性などリスクコミュニケーションに関する計画について必要な調整を行った。 												
<p>7 食育の推進への貢献</p> <p>食育の推進に貢献するため、リスク評価の手法や内容等に関して情報の提供や意見交換を促進し、食品の安全性に関する国民の知識と理解の一層の増進を図る。</p> <p>特に、平成21年度においては、子どもを対象としたリスクコミュニケーションを幅広く展開し、子どもに対する食の安全の啓発を積極的に推進するとともに、食品安全委員会の活動等に関する理解を広げる観点から学校教育との連携の取組みに力を入れる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 6月13・14日に島根県で開催された第4回食育推進全国大会において、ブース出展し、リスク分析の考え方や委員会の役割に関するパネル展示やパンフレット類の配布を行った。 ○ 平成19年、20年に引き続き、8月7日に、小学生を対象として、食の安全について楽しく学ぶ「ジュニア食品安全委員会」を開催し、意見交換や食に関するクイズを行った。 ○ 地方公共団体との連携により、「ジュニア食品安全委員会」など子供を対象とした意見交換会について、以下のとおり、全国で11回開催した。 徳島県（7月23日）、北海道（8月3日）、兵庫県（8月5日）、 愛知県（8月21日）、岡山県（8月25日）、秋田県（10月13日）、 文京区（10月20日）、岐阜県（10月31日、11月5日、12月1日）、 愛知県岡崎市（11月28日）、岩手県（平成22年1月6日） ○ 訪問学習の受け入れを行い、食品安全委員会を訪れた学生に対し、食品安全委員会の取組や食品の安全性に関する説明・意見交換を行った。 ○ 家庭科教員の免許状更新講習へ講師の派遣を行った。 ○ 「どうやって守るの？食べ物の安全性」や季刊誌「食品安全」のキッズボックスなどの分かりやすい資料を活 												

用し、食品の安全性に関する情報提供を行った。

- 学校教育において食の安全に関する基礎的な知識が学習できるよう教育機関・関係団体等との連携を促進するため、平成21年度の調査事業において、中学生を対象とした家庭科の副読本を作成。
- 食品の安全性について理解促進を図るためのDVDソフトとして作成した、「気になる食品の安全性 みんなで学ぼうリスク分析」及び「食品安全の基礎知識 クイズで学ぶリスク評価」を配布。
- 小学校高学年を対象とした、アニメーションを使用した分かりやすいDVDソフト「考えてみよう！！食べ物の安全性～食品添加物や残留農薬について～」を作成。

なお、特段の断りがない限り、平成22年3月31日現在の実績とする。

平成21年度 意見交換会開催状況

				開催地	自治体と連携	他省庁と連携	参加人数
平成21年							
1	5月	26日	食の安全を科学する「サイエンスカフェ」第3話	東京都	○		28名
2	6月	3日	食品に関するリスクコミュニケーションー鶏肉中のカンピロバクター・ジェジュニノコリの食品健康影響評価についてー	福岡県		○	52名
3	6月	5日	食品に関するリスクコミュニケーションー鶏肉中のカンピロバクター・ジェジュニノコリの食品健康影響評価についてー	東京都		○	103名
4	6月	26日	共に考えよう。食の科学「トワイライトセミナー」	東京都			40名
5	7月	9日	アフタヌーンカフェ～「安全な食べもの」って何だろう～	岡山県	○		34名
6	7月	23日	夏休み小学生自由研究お助け教室	徳島県	○		157名
7	7月	29日	食品の安全性に関するリスクコミュニケーション～食品添加物に関する意見交換会～	秋田県	○	○	136名
8	8月	3日	ジュニア食品安全委員会@札幌	北海道	○		16名
9	8月	5日	ジュニア食品安全委員会 食の安全って何だろう？	兵庫県	○		21名
10	8月	7日	ジュニア食品安全委員会	東京都			60名
11	8月	11日	食品のリスクを考えるワークショップ(広島)～知ろう防ごう食中毒～	広島県	○	○	33名
12	8月	21日	ジュニア食品安全委員会～食の安全について学ぼう！～	愛知県	○		29名
13	8月	25日	ジュニア食品安全委員会@おかやま～食の安全について学ぼう～	岡山県	○		30名
14	9月	8日	食品のリスクを考えるワークショップ(岡崎)～知ろう防ごう食中毒～	愛知県	○	○	31名
15	10月	7日	「食品の安全」に関するセミナー	福岡県		○	122名
16	10月	9日	アフタヌーンカフェ～「安全な食べもの」って何だろう～	石川県	○		15名
17	10月	13日	ジュニア食品安全委員会inあきた	秋田県	○		23名
18	10月	20日	ジュニア食品安全委員会@文京区	東京都	○		70名
19	10月	26日	アフタヌーンカフェ	栃木県	○		24名
20	10月	30日	アフタヌーンカフェ～「安全な食べもの」って何だろう～	兵庫県	○		45名
21	10月	31日	ジュニア食品安全委員会in岐阜 アンゼンキングクイズ	岐阜県	○		146名
22	11月	5日	ジュニア食品安全委員会@岐阜	岐阜県	○		123名
23	11月	6日	食品のリスクを考えるワークショップ(徳島)～どう思う？食品添加物～	徳島県	○	○	28名
24	11月	28日	ジュニア食品安全委員会@おかざき	愛知県	○		39名
25	12月	1日	食品のリスクを考えるワークショップ(大分)～どう思う？食品添加物～	大分県	○	○	45名
26	12月	1日	ジュニア食品安全委員会@岐阜	岐阜県	○		72名
27	12月	4日	アフタヌーンカフェ～「安全な食べもの」って何だろう～	北海道	○		21名
28	12月	11日	食品安全セミナー「食品分野におけるナノテクノロジーの今ー世界の動きを中心にー」	東京都			76名
29	12月	15日	我が国に輸入される牛肉及び牛内臓に係る食品健康影響評価(自ら評価)	大阪府			32名
30	12月	18日	我が国に輸入される牛肉及び牛内臓に係る食品健康影響評価(自ら評価)	東京都			83名
平成22年							
31	1月	6日	ジュニア食品安全委員会	岩手県	○		36名
32	1月	15日	アフタヌーンカフェ～「安全な食べもの」って何だろう～	埼玉県	○		28名
33	1月	22日	アフタヌーンカフェ～「安全な食べもの」って何だろう～	長崎県	○		27名
34	1月	26日	食の安全を科学する「サイエンスカフェ第4話」	東京都	○		48名
35	1月	28日	アフタヌーンカフェ～「安全な食べもの」って何だろう～	和歌山県	○		48名
36	1月	29日	食品のリスクとのつきあい方ー食中毒をテーマにー	奈良県	○		205名
37	2月	3日	食品のリスクを考えるワークショップ(群馬)ー気になる農業ー	群馬県	○		26名
38	2月	19日	食品のリスクを考えるワークショップ(和歌山)「みんなで考えよう！「食の安全と安心」ーどう思う？食品添加物ー」	和歌山県	○		42名
39	2月	24日	アフタヌーンカフェ～「安全な食べもの」って何だろう？～	高知県	○		25名
40	2月	26日	食品安全委員会セミナー「食品における微生物のリスク評価について」	東京都			97名
41	3月	9日	食品のリスクを考えるワークショップ(兵庫)ーどう思う？食品添加物ー	兵庫県	○		30名
42	3月	17日	食品のリスクを考えるワークショップ(岡山)ー遺伝子組換え食品ってどんなもの？ー	岡山県	○	○	39名
43	3月	23日	食品安全委員会セミナー「WHO国際がん研究機構(IARC)における化学物質の評価の最新情報」	東京都			110名
				委員会企画数	33	9	2,495名

リスクコミュニケーター育成講座等の実施状況

平成22年3月末現在

	開催場所	指導者育成講座	育成講座(ファシリテーター)	育成講座(インタープリター)
北海道	北海道	H18	H19	H20、H21
東北	青森県			
	岩手県	H20	H21	
	宮城県			
	秋田県	H18	H19	H20
	山形県			
	福島県	H20		
関東	茨城県			
	栃木県	H18	H19	H20
	群馬県	H20	H21	
	埼玉県	H18		H21
	千葉県			
	東京都	H18、H18		
	神奈川県	H19	H21	
	山梨県			
北陸	新潟県			
	富山県	H20	H21	
	石川県	H19	H20	H21
	福井県			
東海	長野県			
	静岡県	H20	H21	
	愛知県	H18、H19、H20	H19、H20	
	岐阜県			
	三重県	H18	H19	
近畿	滋賀県	H19	H21	
	京都府	H20	H21	
	大阪府	H18	H19	H20
	兵庫県	H19	H20	H21
	奈良県			
	和歌山県	H19	H20	H21
中国	鳥取県	H19	H20	
	島根県			
	岡山県	H18、H19	H19、H20	H21
	広島県	H18、H20	H19、H21	H20
	山口県	H19	H20	
四国	徳島県	H18	H19	H20
	香川県	H19		
	愛媛県	H20	H21	
	高知県	H20	H21	H21
九州	福岡県	H18、H19	H19、H20	H20
	佐賀県	H20	H21	
	長崎県	H20		H21
	熊本県	H20		
	大分県	H18	H19	
	宮崎県	H20		
	鹿児島県	H20		
	沖縄県			
実施数		40	30	15

※ファシリテーター：意見交換会などの会議を円滑に進行する技術を有するリスクコミュニケーター

※インタープリター：科学的知見に関する情報をわかりやすく説明できるリスクコミュニケーター

※インタープリター育成講座はブロック毎に開催